

おはようございます。ご紹介くださいましたセンターの代表をしています。岡田です。

①障害を持つ人が繋がり支え合うためのピア・カウンセリング

②障害を持ちながら地域生活を送るためには工夫が必要となります。その工夫を伝える自立生活プログラム

③障害を持つ人であれば障害を持たない人であればともに生きていくために必要な社会の資源(アクセシビリティ)を改善開発をする取り組みをしています。

④2008年4月からになります。

⑤ピアカウンセリングのピアとは、仲間とか同じ背景を持ったとかを意味する言葉です。つまり障害という同じ背景を持った人のためのカウンセリングになります。具体的には障害を持った人どうしがお互いの話しを聞き合う手法をとります。一方がカウンセラーとして聞き続けるのではなくカウンセラー・クライアントという役割を交代しながら同じ時間ずつ聞き合いをします。

⑥障害を持ちながら生きるということはとても大変なことでした。身体機能的に何かができないことも大変です。ただ何かができないことを理由に差を設けられたり区別されたり誤解されたり偏見を持たれることも大変でした。そういった背景は障害を持って生きると同じく経験することがよくあります。この経験を共有したことがある人だからこそ聞ける話があります。

⑦障害を持ったことで何かができないことを理由に差を設けられたり区別されたり誤解・偏見を持たれたりすることが続くと障害を持つ人自身があたかもそれが正しいこととして取り込んでしまいます。それらを取り込んでしまうと深く深く傷ついていきますが、人が本来的に持つ力強さ・魅力・知性・創造力・生命力などでさえも見失っていくことに繋がります。障害を持つ人が生きいきと人生を過ごすためには取り込んでしまったものを否定すること打ち消すことが必要です。そうして障害はたまたま生まれ持ったものに過ぎないのだから障害を理由に差を設けられたり区別されたり誤解・偏見を持たれたりすることで傷つく必要がなかったことを分かち合っていきます。

⑧ピア・カウンセリングはいわば障害に対する社会的抑圧の一つを扱ったカウンセリングです。抑圧とはあるグループに属することでその人の持つ特性によって傷つけられる仕組みを言います。例えば人種の差別・貧富の差別・子どもに対する差別・女性に対する差別・高齢者に対する差別などと並んで障害者に対する差別もあります。この社会のなかであるグループに属していないことは稀です。いわゆる健常であっても何かを理由に差を設けられたり区別されたり誤解・偏見を持たれたりすることがあります。あたかもそれが正しいこととして取り込んでしまった人もいますでしょう。そのことでひとり悩んで苦しんでもがいている人がいるとすれば同じ背景を持つ人と経験を共有したからこそ聞き合える話があると思います。人が傷ついた状態から解放されていけばみずから人を傷つけるようなことをすることを避けることができます。

⑨ピア・カウンセリングを実践し自立した生活を送っている人たちを、私たちはピアカウンセラーと呼びますがそのピアカウンセラーが4人登壇する講演会です。今年は2月に京都市6月に舞鶴市でおこない、この9月に福知山市そして12月に京田辺市でおこなうことにしています。4人のピアカウンセラーがピア・カウンセリングで身につけたことをどのように実践し人生の経験を積んできたか、障害を持つ人たちが地域生活、社会生活を送るために、すべての社会資源をどのように改善開発していったら良いかというお話をします。

⑩障害を持つ人、ご家族、福祉行政の方々、障害福祉の分野でサービス提供する事業者、ピアカウンセリングに興味を持たれた方も来ていただきたいです。

⑪9月23日土曜日、市民交流プラザふくちやま 3階 生涯学習ゾーン「会議室3-2・3-3」、午後1時30分から午後4時、参加費は500円(資料代込み)

⑫必要です。電話もしくはFAXでお申し込みお願いします。ピアカウンセリング講演会と明記の上、お名前・ご連絡先・参加人数をお教えてください。手話通訳や要約筆記などの配慮が必要な方がいらっしゃる場合にはその旨お伝えください。こちらからご相談させていただきます。